新聞社を見学し、記録したものを新聞にまとめる実践
―国語科と社会科、総合学習を通して―

帯広市立緑丘小学校　橋　本　隆　史

1．はじめに

今年の４月に本校に異動し、５年生の担任になった。今まで新聞に関する学習を行ったかついて質問したところ「ＮＯ」であった。

そこで、子どもたちに新聞に関するアンケートをとってみた。

６月２日（５年生３１人）

Ｑ新聞を読みますか？

・毎日読む　…９人（２９％）　・ときどき読む…１４人（４５％）

・ほとんど読まない…５人（１６％）　・読まない　…　３人（１０％）

Ｑ新聞を読むのが好きですか？

・大好き　…　３人（１０％）　・好き　…１３人（４２％）

・あまり好きではない…１５人（４８％）　・興味ない…　０人（０％）

○新聞をとっているかどうかもわからない子が４人いた。

毎日新聞を読む子が意外と多かったが、その他は予想通りだった。

新聞のどの記事をよくみるかという質問で、ほとんどの子が「テレビ欄」と「天気予報」だった。

新聞を読むには、難しい漢字や言葉が多いので、新聞づくりをきっかけに新聞に興味をもってもらおうと考えた。子どもたちは校外学習でバスに乗り、施設見学がとても好きなので、地元新聞社を見学し、それをもとに新聞づくりをした。

2．授業実践　「社会科見学」を通して

（１）新聞への関心を高める

５年生の社会科で「くらしを支える情報」という単元がある。２学期に授業を行う予定であったが、総合学習の時間で新聞づくりの学習を計画していたので、１学期に新聞社見学をすることにした。

国語科（教育出版）

単元名「情報を生かす」　　『自動車工場を見学して』

目標：調べたことをもとに、文章全体の組み立てを考えて、自分の考えを効果的に書く。

① 調べたいことを見つける（自分の課題）

② 調べる（図書室・新聞社見学⇒見学メモ）

③ 記録文に表す（組み立て表をもとに）

④ 記録文を発信する（新聞づくり）

社会科（教育出版）

単元名「くらしを支える情報」　　『情報を伝える人々』

目標：情報を伝える仕事に携わる人々の工夫・努力や国民生活とのかかわりをとらえることができる。情報を主体的に収集・選択して活用したり、発信したりすることの大切さについて考えることができる。

① 新聞に関する疑問を図書室で調べる

② 新聞社を見学する　『十勝毎日新聞社』（地元の新聞）
他に「ＮＨＫ帯広放送局」

取材：記者とカメラマンが協力して取材する。ニュースは、記者が自分で見つけたり、読者から寄せられたりするが、事実をきちんと確認して、正確で公正、すばやい報道をするよう努力している。

記事にする：記者はペンにかえてパソコンを使っている。原稿ができると、通信システムを使って自分のパソコンからコンピュータへと送り、まちがえがないかどうかデスク（取材や編集を指揮する人）のチェックを受ける。

紙面を構成する：チェックが終わった記事は、政治面・社会面など新聞の各面ごとに用意されたコンピュータに送られる。各面を担当する整理記者は、コンピュータの画面上で見出しをつけ、記事や写真の配置を考え、さらに広告を加えて、読みやすい紙面にする。

製版：印刷のため、新聞の各面ごとにネガフィルムをつくる。この工程で、ようやく新聞本来の大きさとなり、形をあらわす。ネガフィルムは、紫外線プリンターで厚さ０．３ｍｍのアルミの板に焼き付けたあと、薬品処理をする。これで刷版（印刷用アルミ版）ができあがる。

印刷：刷版を輪転機にセットして印刷を開始する。１時間に１５万部印刷することができる。最大４０ページの紙面に対応する。新聞印刷に使う巻取紙１本の長さは、約１３．６ｋｍ（幅１．６２ｍ）重さは９５０ｋｇあり、１本でおよそ２０万ページの新聞を印刷することができる。２８ページの新聞を９万部印刷するには、巻取紙を約１３本、約１８０kmも使うことになる。

配送：印刷された新聞は、機械によって自動的に数が数えられ、十勝管内にある６２の販売店ごとの部数で束ねられる。トラックで配送された新聞にチラシを折り込み、およそ１，０００人のスタッフが家に配達する。

（２）出前講師派遣による新聞づくり

十勝新聞教育研究会のＯＢ会の方が講師となって、新聞づくりの出前講座を行っている。ボランティア活動で費用の心配がなく、資料は講師が準備するので、事前準備は一切必要ない。

説明の内容は・・・

① 新聞の名前を決めよう
② どんな内容にするか考えよう
③ 取材しよう（インタビュー、アンケートなど）
④ わりつけ（レイアウト）を考えよう
⑤ 下書きをし、清書しよう

そして、実際に新聞づくりを試みた。内容は、新聞社見学についてまとめた。（別紙参照）

3. 成果と課題

○ 子どもたちの好きな社会科見学を導入として行ったので、学習への意欲が高まり、次への学習につなげることができた。
○ 地元の新聞社で見学できた。しかも見学の受け入れ態勢が整っているので、実際の現場で新聞をつくる過程を見ることができた。
○ 教科との並行で、より身近に学習を進めることができた。
○ 段階を追って進めたので、無理なく新聞づくりができた。
○ 新聞に興味をもち、家で読む児童が増えた。（アンケート参照）
○ 自ら進んで新聞づくりをした子がいた。

・新聞づくりの時間確保が難しいし、進め方に個人差があるので、工夫が必要だ。（１学期の最後にあせって新聞を作らせてしまった）

・新聞に興味をなくした子がいるので、原因を追求し、すぐに対応したい。

4. おわりに

今回の新聞教育の実践は、ＮＩＥの取り組みの入り口である。この実践によって、新聞に興味をもたせ、新聞利用学習・新聞づくり学習に発展させたい。そして、学級新聞や児童会新聞、歴史新聞などをつくり、情報を発信できるように進めていきたい。

今後も新聞機能学習についての研究を深めるとともに、ＮＩＥの新たな教育効果の追究に努めていきたい。

次の段階で、「記事が単なる事実の報告ではなく、新聞社としての論説やコラムを設定することによって世論形成に役立っている」ことを学ばせたい。

アンケートの結果

７月２１日（５年生３１人）

Ｑ新聞を読みますか？

・毎日読む　…１１人（３６％）　・ときどき読む…１６人（５２％）

・ほとんど読まない…　３人（１０％）　・読まない　…　１人（　３％）

Ｑ新聞を読むのが好きですか？

・大好き　…　６人（１９％）　・好き　…１６人（５２％）

・あまり好きではない…　７人（２３％）　・興味ない…　２人（　６％）

しんぶんし新聞

2004年
○○
7月29日

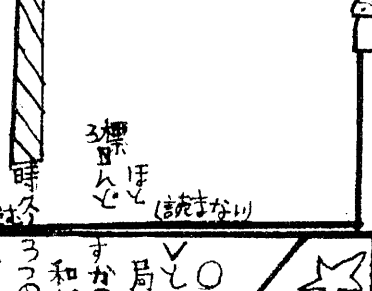
大変、大変!!

どこにましたか。調べた結果を紹介します。印刷は、一秒間行ってもある新聞。す。まず、新聞を作るに20までまとめできるそうその新聞には記事が必要です。です。そして、印刷づいったいそれがないかなどの確認やっぱり作られてその記事を作るには、取材をします。取材はをします。そして配達ているのでどの人達が現場へ記者、カメラマンなをし家に届きます。しょうか。聞社の人は、今日も記ます。そして取材を事を救め大変!! 大変!!

私達は、新聞社に見学をしにいき、記者は編集者、編集長の人達が何度も見直しをします。そして調べてみいかなければ、をし

ナニ?ナニ?

みなさんは、5年3組でどれくらいの人が新聞を読んでいるか知っていますか。私は5年3組でインタビューがあったので調べてみました。下のグラフを見て下さい。グラフを見ると「読んでいない」と言うのは、いていませんが「読んでない」と言うのは0%でした。みんな読んでるなと思いましたかったです。みなさんもグラフを見て新しい発見をしてみて下さい。



FM・JAGA

FM・JAGAのことをみなさんはどれくらい知っていますか。FM・JAは、主にきょうしもGAのJAGAはしあるの野菜から決めたそうです。その野菜はジャガイモです。たまにFM・ジャガーとのばしてる人がいるそうですが正しくは、ジャガでのばさないのので気をつけて下さい。

次にFM・JAGAのくわしくをしします。FM・JAのなぜ十勝のことをくわしくお伝えしてくれるそうです。放送は毎日決まった時間に始まって決まった時間に終わるのですごいですよね。FM・JAGA開局5周年なんだそうです。FM・JAGAのみなさんこれからも良い情報お願いします。

○○ナレ

○○TVという局を知っていますか?○○TVは、和60年に局し今は3つのチャンネルを放送しています。その中の番組で特に人気なのがかがぶっと十勝です。かがぶっと十勝は十勝の情報をお伝えしてくれるニュース番組です。ニュースの内はとてもくわしくそれていてもすごいです。よ。これからもニュースきたいしてます。ファイトッ

編集後紀

みなさん、どうでしたか? この新聞はんぶんし新聞は、十勝毎日新聞社を見学し、この新聞にまとめました。キャラクター、けしクン、えんピン、ノートクンを発明しました。その他にも、みだしの工夫や、さきいなことに、気合を入れました。

見学を終えて

私はいつも届いてる新聞があたりまえのようにたりしてがんばりすごいに感じていました。でも1日の新聞に新聞社の人の大変さがあったのをいなと思いました。あと1つ私がっぱだなと思ったのは、でもいっぱいの情報があつまってりてたとえ、1個のことは、よくあきないなと思いました。新聞社のみなさん今日も記事をあつめてね!!

〈分科会より〉

・３つのネットワーク機能

①人と人とのネットワーク

新聞を読むという活動は、読み手と書き手とがつながることを意味する。単に読むだけでなく、記事をもとに友達との話し合いへとつなげれば、ネットワークはさらに深まる。新聞を作る過程で人に取材したり、完成した新聞を互いに読み合うことで、人と人との関わりを生み出す。

②人と知識のネットワーク

新聞を読むことは、知識を得る。新聞づくりでは、児童は自ら調べたことをもとに知識を深めたり深めたりすることができる。

③思考のネットワーク

新聞をつくることは、自己内対話を生み出すことで、社説に自分の考えを表したり、見出しを書いたりすることは、自己内対話の活性化につながる。新聞は、対話を生み出し、考えを深める。

・新聞をつくりっぱなしにしない。例えば、廊下に貼って人に見てもらうなど。

・新聞をつくったごの添削は、赤ペンを入れず、付箋紙などを貼って指導する。

・なぜ新聞をつくるのか、を頭に入れ、目標を立てる。そして目標の達成感を味わわせる。

・新聞つくりで、一番伝えたいことをしっかりアピールするメッセージが大事。

—MEMO—